2022 年度　第 1 四半期　決算説明会　質疑応答要約

Q）P&S 事業について、製品本体の供給量は今後も連続的に上がっていくのか。一方で、消耗品は駆け込み需要の反動減が出るのか。

A）製品本体の生産は、順調に進んでおり、下期にかけて供給量は増えると想定している。
消耗品については、第 1 四半期で駆け込み需要があったが、年間では、想定通りの売上になる見込み。

Q）消耗品の駆け込み需要があったにもかかわらず、収益性が下がっている要因と今後の利益の見通しは。

A）部材・物流コストの高騰や販管費の増加により前年同期と比べると収益性は下がっている。
年間の見通しについては、変更はなく、期初の想定通りに推移すると見ている。

Q）在宅需要に変化の兆しはあるか。

A）大きな変化はなく、働き方の変化による分散印刷の需要は継続すると見ている。
コロナ前からの印刷量（PV）については、これまで SOHO は約 90%、SMB は約 85%で推移しているとご説明してきた。SMB はそこから変わっていない。SOHO は、オフィスに人が戻り、在宅勤務での 1 台あたりの PV は少し減少傾向にあるものの、今後大きく下がるとは想定していない。

Q）産業機器の収益性が前四半期と比較して下がっている要因は何か。

A）市況は悪くなく、受注も堅調であったが、部材不足の影響で生産が落ち込んだことや部材コストの高騰により、収益性が下がった。現在、部材不足は解消に向かっており、第 2 四半期以降の挽回により、年間の売上はキャッチアップできると想定している。

Q）産業機器の生産拠点である刈谷工場・西安工場の稼働状況について、上海ロックダウンやコロナの状況を踏まえて教えてほしい。

A）第 1 四半期は、部材不足の影響を受け、刈谷工場・西安工場ともに稼働率が落ち込んだ。上海のロックダウンの影響も一部受けたが、相対的にはそれほど大きくない。現在、部材の調達状況は回復傾向にあり、西安工場は計画通りの生産ができるまでに回復している。刈谷工場は、まだ部材不足の影響があるが、第 2 四半期中には、計画通りに生産できるようになると想定している。

Q）ドミノ事業は前年度下期に利益率が悪化したが、今期回復してきている。この背景と継続性は。

A）C&M を中心に製品本体・消耗品が堅調に推移している。売上増により、収益性も上がると想定している。ただし、営業活動の再開による販管費の増加や部材・物流コストの高騰などはリスクとして捉えている。

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

Q）ニッセイ事業が好調に推移している要因は何か。

A）工場の自動化・省人化やロボット・FA 向けの設備投資需要が強く、中期戦略「CS B2024」の想定通り、減速機・歯車ともに売上を伸ばしている。

Q）N&C 事業は、年間で 4 億円の事業セグメント利益計画に対し、第 1 四半期は 3 億円。進捗について解説してほしい。

A）コロナの感染状況が落ち着いていたことにより、第 1 四半期は、売上・利益が回復した。営業利益については、前年度分の助成金が今期計上されたということもある。ただし、依然として国内における感染状況は不透明であるため、年間計画は据え置いた。

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.